



裏山遺跡の鉄器

小池義人（新潟県埋蔵文化財調査事業団）

A. 新潟県域の弥生時代の鉄器

現在40点前後の鉄器・素材等の出土が知られる。石川県域に比較して大きな開きがあるのは、そもそも弥生集落の調査例が乏しいことに加え、北九州・山陰との交易という鉄器獲得手段にあって西から東への漸減的傾向に沿うものであろう。

出土の分布は、いわゆる高地性集落と概ね重複しており、これらの遺跡が消費地であるとともに、鉄器の流通にも一定の役割を担っていると推測される。鉄器の帰属時期については、中期・後期前半に遡る確実な例は存在せず、普及が明確になるのは、高地性集落が形成される時期と重なる後期後半以降である。後期の遺跡は、程度の差はあれ玉作の遺跡であることが通有で、新潟県域においても鉄器は玉作技術の変化と密接な関係にあると言える。

頸城地方の3遺跡（裏山・斐太・下馬場）を除けば、鉄製品の出土はいずれも散発的である。県北部にある新津市八幡山遺跡は、畿内的な大規模高地性集落であるにもかかわらず、方形周溝墓の刃関双孔鉄剣1点と豎穴の鉄鏃1点に限られ、鉄の保有状況は、頸城とそれ以外の地域とでは対照的である。ただし、頸城以外は散発的であるとはいって、和島村姥ヶ入南遺跡の大型の袋状鉄斧（長さ15.6cm）三条市経塚山遺跡の板状鉄斧、前述の八幡山遺跡の鉄剣のように、舶載と見られるものや、特定の地域に分布するものが含まれ、北に向かうにしたがって、数が現象するという単純な図式では理解できないものがある。なお、裏山遺跡の報告書における、鉄製品集成の不備と遺漏は、本集会の発表レジュメ集で概ね修正させていただいたので、詳細はこれを参照いただきたい。

B. 裏山遺跡の鉄器と玉

新潟県域で、小型の鉄器と鋤先が共出している例は裏山遺跡のみで、この点では山陰・北陸南西部との共通性が認められる。鋤先は2タイプ計6点があり、1遺跡の数量としては突出している。ただし、鉄板の厚さは1mm前後と薄く、刃幅も山陰・北部九州のものに比較してかなり小さく、鋤先としてはやや異様なものである。北陸での生産、あるいは再加工の可能性もある。有孔の鉄鏃は中部高地の石鏃と関連性のあるものであろうが、信州系の土器は1点のみであり、鉄器を多く保有する長野県域との関係は土器の上からは窺えない。また、この形態は山陰にも存在するものである。

8基の豎穴からなる小集落としては鋤先の量が突出していること、鉄器関連の遺物として70点あまりの砥石と165点の軽石製研磨具があることからすると、鉄器は集落の消費財のみではなく、保守工具をも含めて集散を目的に一時保有された可能性が高いと考えている。

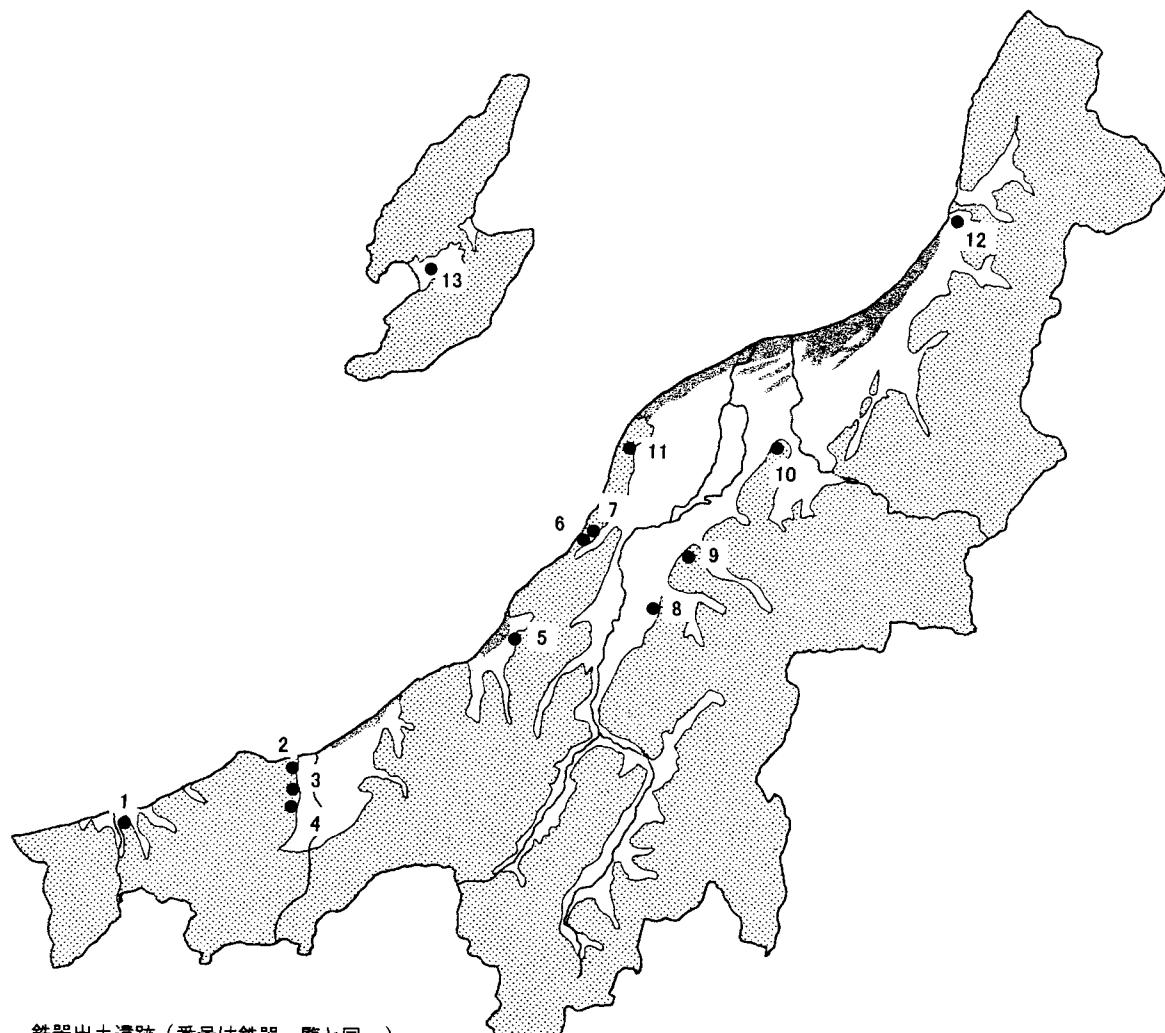
玉関係の遺物は、管玉の製品・研磨途上品・柱状剥片等と、ヒスイの角礫塊・半製品などがあるものの、碎片が皆無である。研磨・穿孔作業のみが行われたと考えることは否定できないが、一連の玉作工程の中で剥離調整作業が欠落するのは不合理であり、裏山では積極的に玉作を認めがたい。玉の石材がない高田平野周辺では、地域完結的な玉生産を想定する富山の論者[富山2001]とは相違して、素材や半製品を二次的に生産する玉作遺跡と、これらを集散する集落が存在することになろう。

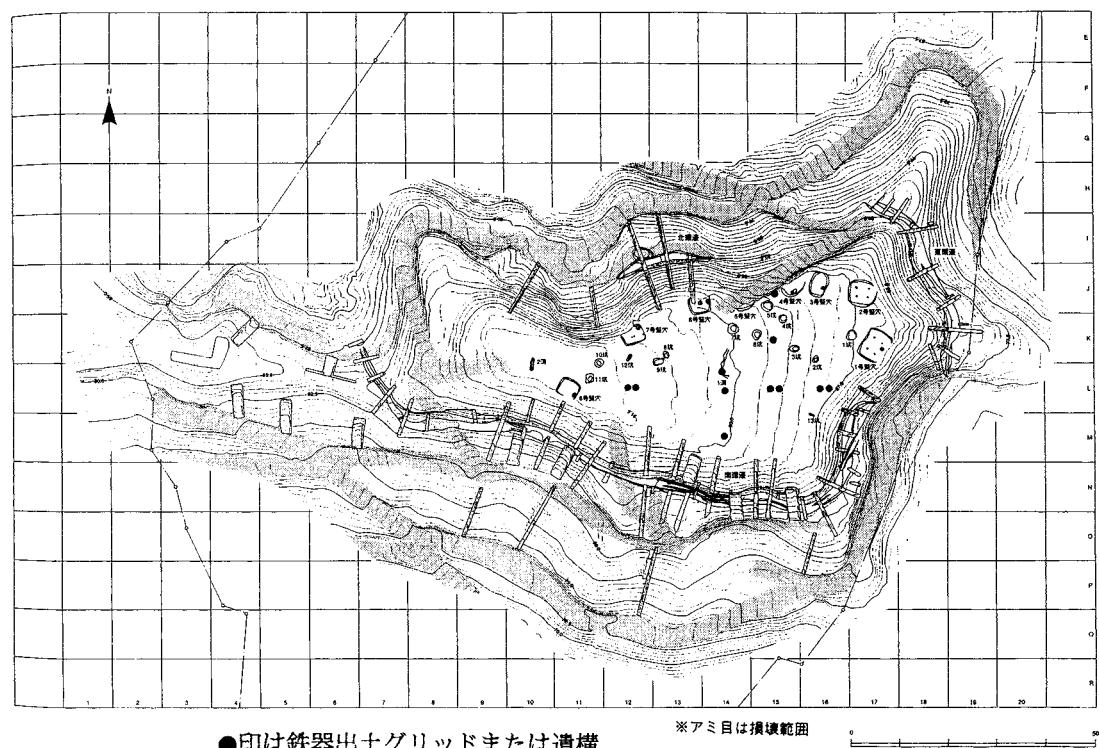
鉄と玉は地域内で求められない物資であり、少ない資料からの推測ではあるが、高地性集落というランドマークが、集散地としてこれらの流通に深く関与していたと思われる。

新潟県域における弥生時代の鉄器一覧（古墳前期までの時期幅を有するものを含む）

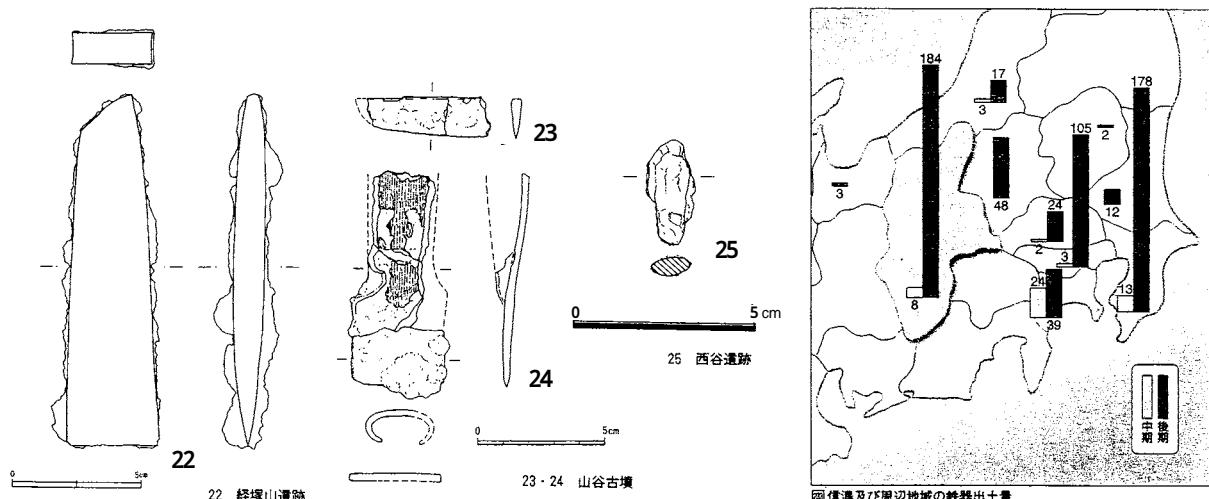
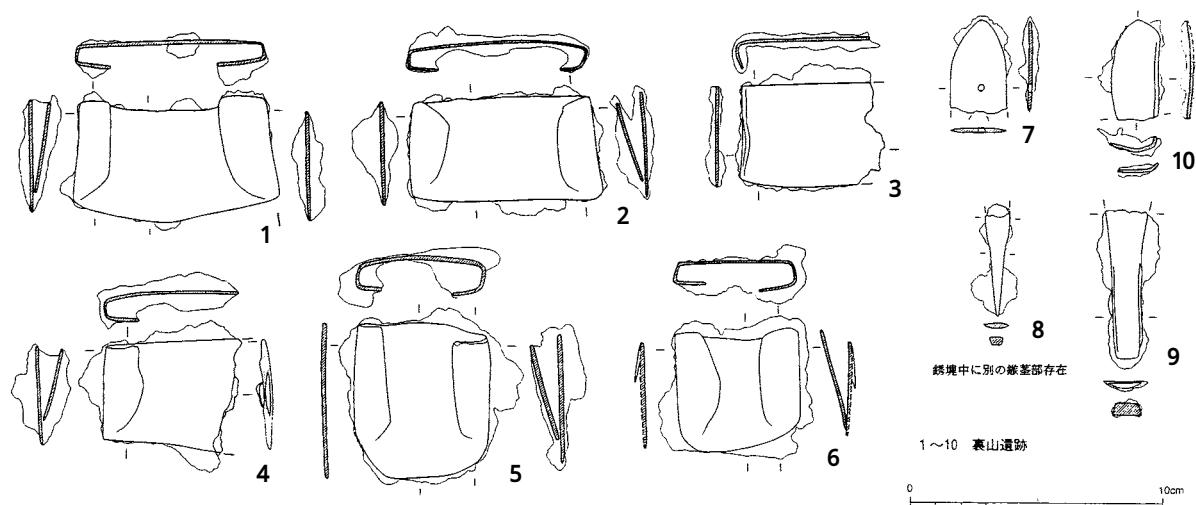
	遺跡名	所在地	出土地点	鉄器種別・数量	時期
1	後生山遺跡	糸魚川市	1号住居跡	「刀子」1	後期
2	裏山遺跡	上越市	包含層 1号溝	鋤先5・鉄鎌3・ヤリガンナ1・不明1 鋤先1	後期後半 〃
3	下馬場遺跡	上越市	1号竪穴 2・6・7号竪穴 13号竪穴	鉄鎌1 不明鉄片各1 錐4？（錆着1塊）	後期後半 〃 〃
4	斐太遺跡 (上ノ平・矢代山)	新井市	第1号住居址 第2号住居址 第24号住居址	「刀子」1・「釘片」1 「刀子残欠」1 「鉄片」1	後期後半 後期後半 後期終末～古墳初頭
5	西谷遺跡	刈羽郡刈羽村	環濠	「不明」1	後期後半
6	姥ヶ入南遺跡	三島郡和島村	墳墓	「鉄劍」1・「鉄斧」1	後期終末
7	奈良崎遺跡	三島郡和島村	竪穴 溝	不明1 鑿状鉄製品？1	後期後半～終末 後期後半～古墳前期
8	横山遺跡	長岡市	不明	「鉄製品の小片」1	後期終末～古墳初頭
9	経塚山遺跡	三条市	3号住居址	「板状鉄斧」1	後期後半
10	八幡山遺跡	新津市	2号方形周溝墓主体部 S I 13号住居址	「鉄劍」1 「鉄鎌」1	天王山式 後期
11	山谷古墳	西蒲原郡巻町	小マウンド1盛土	「袋状鉄斧」1・「刀子」1	後期後半～古墳前期
12	砂山遺跡	村上市	不明	「鉄斧」1・「刀子」2 ※鉄斧は関雅之氏の採集物 ※小片・上原1972では鉄器の記述はなし ※橋本1997では「鑿」の記述あり	天王山式主体
13	千種遺跡	佐渡郡金井町	不明	「刀子」1	後期終末～古墳初

時期と土器編年の対応　後期前半：猫橋式（西念・南新保IVの2期）　後期後半：法仏式（〃3期）
後期終末：月影式（〃4期）　古墳初頭：白江式（5期）





●印は鉄器出土グリッドまたは遺構



【大阪府立弥生文化博物館2001】